

備前市事務事業評価シート

(平成23年度事業)

事業の概要		事業開始年度	昭和62年度～	根拠法令・例規等	図書館法 備前市立図書館設置条例 備前市立図書館設置条例施行規則
総合計画	大項目 基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり	問 担当課(室)	中央公民館
	中項目 基本施策	02	生きがいのあるまちづくり		
	小項目 施策	05	図書館・視聴覚ライブラリー		
事務事業名		01	図書館運営事業	合 職・氏名	館長代理 森中信行
				先 電話	64-1133
このシート作成に要した時間					2.0 時間

事業の目的		Plan
対象 (誰・何に対して)	市内・近隣市町村(赤穂市・上郡町)に在住している人または市内に通勤・通学している人	事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価
目的 (何のために)	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保有して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資する。	
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	市民の全てが、教養、調査研究、レクリエーション等のために図書館を利用し、心豊かに生きがいのある生涯学習を行ってもらうため。	

事業の実績		Do		
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度	
	図書館運営事業	市民に最も身近な図書館として地域の人人々に読書をはじめとする情報サービスを提供し、人々が知識や情報を得たり、レクリエーションを楽しめるように助けることを目的とした事業。図書館利用者に対し、貸出・リクエスト・相互貸借・主催事業(読み聞かせや講座等)・レファレンス(各種問い合わせ)などの館内でのサービスの業務のほか、来館困難な遠方利用者への図書の移動図書館巡回サービス、絵本を通しての親子の触れ合いの大切さを説明し、乳児に絵本を手渡すブックスタート事業など。また、そのための図書、記録、その他必要な資料を収集、整理、保存等の情報資料整備業務も行う。		
	県図書館協会負担金	岡山県立図書館をはじめとする公共・大学・学校・専門図書館・公民館を中心に組織された協会ため、図書館事業の発展ならびに会員の資質向上を図り、県民の教養・文化の向上に寄与するため、図書館に関係のある調査研究や、講演会、講習会等の開催などの事業を行う。		

決算額	事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
	事業費	千円	14,073	17,108	30,656	
	必要人員	人	1.38人	1.40人	1.33人	
	事業費	千円	10,611	11,292	11,077	
	事業費	千円	24,684	28,400	41,733	
	国庫支出金	千円			13,320	
	受益者負担	千円		17	13	
	繰入金	千円				
	市債	千円				
	その他( )	千円		10	22	
一般財源	千円	24,684	28,373	28,378		
受益者負担比率	%	-	0.1%	0.0%		

結果指標	結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
	結果指標量	冊	122,610	120,629	121,482
	対前年比	%		98.4%	100.7%
	活動コスト	円	24,684,000	28,400,000	41,733,000
	単位当たりコスト	円	201	235	344

事業の成果		年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
成果指標名	成果指標	目標値(A)	3.5	3.5	3.5	3.5
	図書1人当たりの貸出冊数	実績値(B)	3.1	3.1	3.0	到達目標値
	達成率(B/A)		88.57%	88.57%	85.71%	3.5

成果指標設定の考え方・式や説明  
岡山県公共図書館調査(岡山県図書館協会)平成22年度(実績は21年度分)によると常住人口1人あたりの貸出冊数の平均は5.6冊。  
現状現状をふまえて3.5冊を目標とする。  
図書1人あたりの貸出冊数=貸出冊数/人口

事務事業の評価		該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	A
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい
	手段	受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	C
有効性の評価	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい
	市民参画度	法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	C

進行年度(H24年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	23年9月より新図書館システムを更新し、利用者にとって便利なサービス(インターネット予約)が提供できるようになった。貸出冊数はわずかに増加したので、引き続き定期的な読み聞かせ等の図書館行事と図書館利用の周知を進め、参加者と利用者及びボランティア数を増やしていきたい。また、子どもの読書活動の推進を進めていく。

総合評価		総合評価
図書館の予約(リクエスト)件数・レファレンス(問い合わせ)は増加傾向にある。より良いサービス提供のため職員の司書の研修・連絡会を毎月行い、仕事の質とサービスの向上を図る。また、子どもの読書活動推進も進めていく。定期的な読み聞かせ行事等はボランティアへの呼びかけにより活性化を図り、参加者の増加へとつなげたい。更なる利用者を増やすために図書館のPRにも一層力を入れる。	A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい	

平成25年度の方向性・取組目標		Action
方向性	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了	取組目標 市内に旧町単に3館(本館・分館2)ある点を踏まえ、市民にとって最善の運営形態を目指す。
取組目標		

事業の意図する成果とつながら成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標を評価しな